

（6）久万高原ブロック（久万高原町）

～産地づくり～

生産者の高齢化が著しく進行するなか、夏季冷涼な気候を活かした夏秋野菜における新たな栽培者の確保・育成や生産技術の向上による産地振興を図ります。

また、単収の低い農家の要因分析とその課題解決に向けた対策の推進や技術指導強化等を図ることで、安定した生産量を確保するとともに、生産者の高齢化に対応できる省力化技術の導入や、労働力の確保対策を講じながら、産地の規模拡大を図ります。

～推進品目や産地づくりの方向～

○若手栽培者を核としたトマト産地の復活

【取組】

- ① 産地復活支援として、久万高原町営農支援センターを拠点とした新規就農者等の確保や栽培技術向上を目指した勉強会の開催 [図1]
- ② 平均単収の向上を目指すため、単収が伸びない生産者の要因解明と改善指導を実施
- ③ 新規就農者の単収向上を図るため、作成した技術マニュアルを活用した個別指導を実施 [図2]
- ④ 農業公園研修生や新規就農者に対し、夏場の生産・品質安定対策を指導

【成果】

- ①
 - ・ 農業公園研修生を新規で2人確保
 - ・ 研修生を対象とした勉強会（6回）を通じて、栽培技術や土づくり、簿記記帳、農作業安全等の基礎技術が向上
- ② 個別巡回指導（延べ54回）により、適期作業の遅れが低単収要因の一つと判明
- ③ 生育状況に応じた栽培技術指導（8回）を通じて、遅れることなく栽培管理、病害虫対策を実施
- ④ 来年度、細霧冷房システムを2人導入予定



【図1】研修生向けの勉強会



【図2】トマトの栽培技術指導



【図3】栽培講習会の実施

○ピーマン栽培における省力化の推進と産地の規模拡大

【取組】

- ① 講習会にて、基本技術の徹底と労力に見合った栽培方法の提案 [図3]
- ② 肥料高騰対策として2試験区を設置し、低コスト施肥資材の比較・検討 [図4]
- ③ 新規栽培者の確保

【成果】

- ① 栽培講習会や個別巡回、定点調査（9回）等の指導を実施したが、生育前半の長雨や、8月以降の高温等により、収量が低下
 - ・ 平均収量：5.4t/10a [R5：6.3t] ・ 出荷量：403t [R5：489t]
- ② 低コスト肥料実証試験を2か年実施し、現行より安価な施肥設計でも同等以上の収量が得られることを確認
- ③ 次年度の新規栽培者：4人



【図4】低コスト施肥資材実証

～地域づくり～

就農希望者に対し、町の農業研修制度を活用して、トマト栽培や経営管理等の研修を実施します。若い新規就農者には、青年農業者組織での活動を通して地域内外での仲間づくりを支援するとともに、スムーズな地域への就農と定着に努めます。

また、規模拡大を目指す農家等に対し、スマート農業等省力栽培技術の導入を支援するとともに、地域計画の実現に向けて農地の集積を図り、地域の担い手として育成します。

中山間地域の夏季冷涼な気象条件を活かした夏秋期の出荷品目や土地利用型作物（加工用野菜、雑穀、さといも等）の拡大・活用等による農業所得の向上と地域の活性化を図ります。

営農に関する情報共有システムを構築し、映像によるリアルタイムな情報交換と現場の課題解決を図るため、高速情報通信網の活用を含めたスマート農業の導入を推進します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○地域農業を支える新規就農者の確保・育成

【取組】

- ① 就農相談会等への参加による就農候補者の確保 [図5]
- ② 町の研修制度を利用した、栽培技術や経営管理等の研修機会の創設による、就農候補者に対する就農への後押し
- ③ 関係機関が一体となり、講習会や生育調査を兼ねた巡回指導等による新規就農者に対する就農定着の支援
- ④ 若い就農者に対する青年農業者組織への加入促進や、集団活動を通じた仲間づくりの支援のほか、広報誌での紹介や栽培技術の情報交換等を通じた、交流による地域への定着支援 [図6]

【成果】

- ① 移住フェア（東京）に参加し、制度を周知、就農を促進
- ②
 - ・新たに2人が農業研修を開始 [R5：3人、R4：4人、R3：3人]
 - ・新規就農者：5人（トマト栽培：5人）
[R5：4人、R4：2人、R3：3人]
- ③ 就農3年後の定着率100%を維持
- ④
 - ・青年農業者組織への新規加入数：2人
[R5：7人、R4：4人、R3：3人]
 - ・青年農業者を対象に勉強会・情報交換会を5回開催し、栽培管理技術・知識が向上



【図5】 移住フェア（東京）



【図6】 栽培技術の情報交換



【図7】 自動給水機の設定



【図8】 後期管理講習会

○担い手型水田農業の推進

【取組】

- ① 水稻の経営規模拡大志向農家に対し、水田自動給水機の省力技術の導入などスマート農業の推進 [図7]
- ② 水田農業に取り組む担い手に対し、水稻の生育調査や病虫害一斉調査（2回、172か所）、後期管理講習会（7月：33か所、111人参加）等を通じた高品質化の支援 [図8]

【成果】

- ①
 - ・水田自動給水機による省力技術の実証ほを設置し、生育、収量及び品質について、現行栽培と差異がないことを確認
 - ・自動給水機の導入により、水管理の作業時間（ほ場見回り回数等）が半減 [21h → 10h]
- ② 米の管内1等比率：94.7%
[R5：91.6%、R4：98%、R3：93%]

○農家の6次産業化の推進

【取組】

- ① 雑穀の生産振興を支援するため、新規栽培者に種苗を配布するとともに、展示ほ場を3か所に設置
- ② 雑穀を用いた、郷土料理の伝承に係る料理講座の開催 [図9]
- ③ 雑穀を用いた、メニューの提供及び新たな商品開発の支援

【成果】

- ① 雑穀の栽培面積：250a [R5：230a、R4：220a]
生産者：23人 [R5：17人、R4：14人]
- ② 雑穀を用いた郷土料理について、町内学校や幼稚園（3か所）の児童・園児に伝承
- ③
 - ・雑穀を用いたセットメニューを町内のカフェ1店舗でメニュー化
 - ・県立上浮穴高等学校と連携し、雑穀カレーの具材セット「ぶちきびカレー」を商品化、町内のスパイス等製造事業者より道の駅天空の郷さんさんで9月から販売開始 [図10]
 - ・「ぶちきびカレー」は、久万高原町のふるさと納税返礼品に採用



【図9】 雑穀郷土料理の伝承



【図10】 ぶちきびカレー

～基盤整備による担い手への農地集積の加速化と果菜類の産地規模拡大～

○農業用水の安定確保と担い手への農地集積

【取組】

- ・高齢化や人口減少による担い手不足と荒廃農地の発生を食い止め、担い手への農地集積や新規就農者の定着と、トマトやピーマン等の夏秋期果菜類の産地規模拡大、出荷品目の増強を後押しするため、農業用水の安定確保と農作業の省力化や効率化につながる、用水路のパイプライン化を2地区で、暗渠排水の設置を1地区で実施

【成果】

- ・用水路のパイプライン化工事完了
ナベラ地区：L=0.6 km [図11]
永子地区：L=1.4 km [図12]



[図11] 用水路のパイプライン化
給水栓施工状況（ナベラ地区）



[図12] 用水路のパイプライン
加圧試験状況（永子地区）

～足腰の強い畜産業を振興します～

○足腰の強い畜産業の振興

1 四国カルスト牧場の取組み

【取組】

- ① 放牧衛生指導指針に基づき、放牧牛の定期的な衛生検査（健康チェック）による疾病等のまん延防止対策の指導のほか、繁殖雌牛の繁殖指導を実施
- ② 牧場の家畜収容力の維持、向上を図るため、有害雑草の駆除や草地の改良指導を実施

【成果】

- ① 延べ187頭の衛生検査を実施し、疾病等のまん延防止対策に関する意識の向上、牧場の清浄性を確保 [図13]
- ② 市町や農協と連携して除草剤散布を行い、雑草を防除しつつ、放牧に適した植生を維持

2 媛っこ地鶏の取組み

【取組】

- ・新規就農者1名に対し、飼養管理及び衛生対策技術について、助言指導を実施 [図14]

【成果】

- ・鶏舎の整備、基本的な飼養管理、衛生対策の指導助言を実施したほか、6年度は夏季の暑熱対策を重点的に指導

3 家畜伝染病侵入防止の取組み

【取組】

- ・飼養衛生管理基準の遵守徹底を図るため、定期的に巡回指導を行うとともに、関係機関と連携して 防疫研修会を開催

【成果】

- ・9月に防疫研修会を開催し、関係者の意識向上と万一の際の作業手順を確認 [図15]
- ・農家巡回を実施し、家畜伝染病等に関する技術情報を提供したほか、飼養衛生管理基準遵守の実効性を確保



[図13] 四国カルスト牧場での
衛生検査



[図14] 媛っこ地鶏の指導



[図15] 防疫研修会